

第2回府中市教科用図書採択地区選定委員会 議事録

日 時 令和6年7月9日（火） 13：30～18：30

場 所 府中市教育センター第一・第二会議室

出席者 渡部光昭会長、高本智義副会長、吉岡史裕委員、住田孝正委員
榎本直揮委員、北川浩一郎委員、杉原満治委員、奥村圭太委員

【高本副会長】

これから、第2回府中市教科用図書採択地区選定委員会を行います。

みなさん、ご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日から教科書の選定をしていただくわけですが、調査員の説明を聞くことに加え、不明な点は質問をしていただき、それぞれの教科書の特徴について協議していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局より事務連絡をお願いします。

【大垣主査】

まずは、本日配付の資料を確認いたします。レジュメ、資料1・調査研究の観点、資料2・調査報告書、資料3・評価表、別綴り・広島県選定資料、「別紙 調査員による調査報告について」、前回の議事録です。過不足がございましたらお知らせください。

前回の議事録についてですが、ご確認の上、記名、押印をしてお帰りください。

では、今回からの会の流れについてです。改めて、教科書採択についての流れを説明します。

本日を含めて2回の会議でそれぞれの教科の調査員から、資料1に示す5つの観点に基づいて各社の教科書の特徴を報告してもらいます。その報告を受け、本選定委員会には、府中市教育委員会からの諮問に対して答申をしていただくことになります。

なお、第1回の選定委員会の後に、広島県選定資料が届きましたので、お配りしております。調査の視点を確認したところ、変更点がありましたので、それを赤字と青字で示しております。ほぼ、県の視点とそろえておりますが、青字の部分は、合同で調査する市町の情報を基に、県の視点から変更している箇所となります。調査員は、この修正した観点・視点に基づいて報告書を作成しております。

資料2をご覧ください。これは、府中市教育委員会へ答申をしていただく際の客観的な資料となります。この資料を基に、皆様のご意見を付け加えたものが答申の形となります。

続いて、資料3をご覧ください。こちらは、調査報告を受け、協議をしていただいたのち、3段階で評価していただくものです。その際の基準についてですが、検定済み教科用図書ということは、どの教科書会社の教科書も文部科学省によって、優れていると判断されたものであるということです。従いまして、評価の基準は、「2」として、特に顕著な教科書は「3」、あまり顕著ではないと判断されるものは「1」という基準で評価をしてください。よろしくお願いいたします。

この後、調査員から報告を受けますが、本日は、レジュメに示してございます、5教科

についてです。

別紙をご覧ください。限られた時間でも、充実した選定が行えるよう、全教科の調査員に、このとおり調査報告をするよう連絡しております。例文にありますように、各観点で特徴的なものの番号が報告されますので、選定委員の皆様には、マーカーを入れながらお聞きいただきたいと考えております。さらに、最も特徴的な観点については、別の色のマーカーを入れてください。

調査員からの説明を 10 分間、質疑応答に 10 分間、選定に係る協議及び評定を 10 分間、合計 1 教科の予定時間は 30 分間としております。国語科には、書写を含み、音楽科は、一般と器楽合奏で分かれるため、調査員の説明を最大 20 分間としています。予定時間内に評定が終わらなかった教科については、16 時 40 分からの時間で再度協議を行っていただきます。

府中市の子供たちが使用する教科書の選定が厳粛且つ適正に行われるよう、ご協力をお願いいたします。

私からは以上となりますが、この後、技術の教科書に係る調査研究報告を受けますので、技術の教科書をご準備ください。

【高本副会長】

それでは、調査員の調査研究報告をお願いします。なお、ポイントを絞って 10 分以内で報告をお願いします。

【調査員】

ただいまより、技術家庭科、技術分野の教科用図書の報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

まずは、東京書籍の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えいたします。

第 1 の観点は、視点②

第 2 の観点は、視点③

第 3 の観点は、視点⑥

第 4 の観点は、視点⑧

第 5 の観点は、視点⑩が特徴的でした。

さらに、東京書籍の教科書で最も特徴的なのは、第 5 の観点の視点でした。具体的には、東京書籍の 4 ページをご覧ください。ここには、「デジタルコンテンツを活用しよう」というページを設け、教科書内で使用できるデジタルコンテンツのメニューを表示させる二次元コードおよび URL、そして教科書内の二次元コードで表示されるデジタルコンテンツの説明があります。デジタルコンテンツは動画の他、思考ツールやワークシート等、8 種類のものがそれぞれの学習内容に合わせて用意されています。また、使い方の参考例も掲載されています。二次元コードは、教科書の見開きページの全てに示されています。その見開きページの掲載内容の中で、関係するところが D マークで示されており、生徒が主体的に学習に臨むことができるような工夫がされています。

次は、教育図書の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えいたします。

第 1 の観点は、視点②

第 2 の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が特徴的でした。

さらに、教育図書の教科書で最も特徴的なのは、第1の観点の視点でした。具体的には、A～Cの内容の第3章、Dの内容の第4章において、社会の発展と技術との関わりを考えるために「技術のプラス面とマイナス面」について考えさせることができるような項目が用意されていることです。教育図書の108ページをご覧ください。品種改良を例に挙げ、技術の進歩によるプラス面だけでなく、これまでの技術のマイナス面や、新しく開発された技術により新たに生じるマイナス面など、技術について多面的に捉えられるよう、記載されています。これにより、生徒はこれまでの学習を振り返りながら、技術の役割や技術が社会に与える影響などについて理解を進め、技術の活用法や新しい技術についての考えが深まるように工夫されています。

次は、開隆堂の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えいたします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑧

第5の観点は、視点⑨が特徴的でした。

さらに、開隆堂の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点の視点でした。具体的には、開隆堂の27ページをご覧ください。このように各内容の導入ページに「小学校や他教科とのつながり」として、関連する学習内容を一覧で示しています。「材料と加工の技術」に関することであれば、「小4算数 立体図形」や「中学校理科 身の回りの物質」などです。また、教科書114ページをご覧ください。教科書内で、他教科や小学校での学習内容と特に関連があるところや、技術分野内の他の内容及び家庭分野と関連するところは、マークを付けて示してあります。これにより、生徒が小学校や他教科、総合的な学習の時間などで学習した内容を振り返りながら、技術分野の学習に取り組むとともに、他教科での学習でも、技術分野で学習した内容を生かしていくといった、カリキュラム・マネジメントを進めていくための工夫がされています。

以上で、技術家庭科、技術分野の教科用図書の調査報告を終わります。

【高本副会長】

それでは、今の調査報告を受けて、調査員に質問はございませんか。

【杉原委員】

生徒は1人1台端末を持っているということで、観点にもあるデジタルコンテンツの活用が非常に大事な視点になってくると思います。どの教科書も二次元コードを掲載していて工夫をしていると思いますが、特に3社の中で優れていると言いますか、特徴があれば教えてください。

【調査員】

各教科書ともデジタルコンテンツの記載があります。東京書籍、開隆堂については、ほぼ全てのページに二次元コードが記載されており、生徒用の端末で読み込むことで内容につ

いて詳しく表示されるようになっていきます。また、教育図書は別冊「スキルアシスト」に二次元コードが付いており、読み込むことで道具の使い方等について見られるようになっていきます。東京書籍は、単に動画だけでなく、思考ツールが付いていることが特徴的だと思います。動画やワークシートは東京書籍も開隆堂も付いています。

【北川委員】

デジタルコンテンツの活用が気になります。実際のところ端末を使って利用されていますか。生徒が自主的に使っているのか、授業で使っているのか、現状を教えてください。

【調査員】

動画サイト等を見せることはありますが、教科書の内容に準拠したものがない場合もあります。二次元コードを読み込んだ映像を教員が提示して見せる、教科書の動画を見せるといったことは頻繁に行われています。

【奥村委員】

主体的に学習に取り組むことが求められている中で、第3の視点で各社の特徴的なところを教えてください。

【調査員】

東京書籍の場合、第3章の83ページをご覧ください。「未来のテクノロジー」というページがございます。これからの技術を考えていく時に、東京書籍は技術のガバナンス、技術のイノベーションという言葉を使って今までの技術の評価と今後の技術について考えることができるワークシートを掲載しています。

教育図書の場合は250ページをご覧ください。「将来のあなたへ先輩からのメッセージ」というところで、今学習してきた技術分野の内容が将来の自分たちの進路にどのように関わっていくのか、実際の高等学校、専門分野の学校の紹介とともに先輩たちの言葉と一緒に掲載されています。

開隆堂の場合、74、75ページをご覧ください。自分の作った作品について評価するページになります。自分のやったことを振り返るワークシートが準備されていることが特徴です。

【高本副会長】

では、調査員の方、ありがとうございました。

これより、協議を行います。調査員からの報告書をもとに、その通りという意見でもいいですし、その他の点についてでも構いませんので、意見を出してください。

【奥村委員】

第3の視点「主体的に学習に取り組む工夫」として、東京書籍の各章の「未来のテクノロジー」では、今後どうしていきたいかを考えるワークシートがそれぞれに付いています。評価活動が次に繋がるような構成になっているので特徴的だなと思いました。

【杉原委員】

木材加工の項目で各社を比較してみました。開隆堂と東京書籍の場合は、この使い方であったり、切削であればカンナの使い方であったり、そういったものを実際の写真も入れながらわかりやすく説明しているのに対して、教育図書の方は、例えば切削の技術のところには大きな機械の写真はありますが、実際の生徒が作業する上で参考になるような記載が少し

不足しているように感じます。

【北川委員】

2つあります。デジタルコンテンツは3社とも横並びで大きな差はないと思います。

教育図書は、調査員が説明されたように、技術のプラス面、マイナス面の視点が示されていて面白いと思いました。便利になってよいことばかりだけではなく、スマートフォンや自動運転など、これから気を付けないといけないことが書いてあるので、この分野の教育としては面白いなと思いました。早い時期からそのようなことを知っていてもよいと感じるので、私は教育図書の第1の観点の視点②はよいなと思いました。

【高本副会長】

それでは、調査報告や協議を元にして、評価表にご記入ください。

【高本副会長】

続いて、家庭の調査研究報告に移ります。それでは、調査員の調査研究報告をお願いします。なお、ポイントを絞って10分以内で報告をお願いします。

【調査員】

ただいまより、技術家庭科の家庭分野の教科用図書の調査報告をさせていただきます。よろしく願いいたします。

まずは、東京書籍の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑩が特徴的でした。

さらに、東京書籍の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点の視点⑩「デジタルコンテンツの活用」でした。具体的には、4ページをご覧ください。学習内容を定着・深化したり、家庭での実践に役立てたりできるデジタルコンテンツが大変豊富に掲載されています。コンテンツの種類が7種類示されていますが、生徒はタブレット端末でこのような様々なコンテンツを利用することができます。すぐ右の5ページをご覧ください。例えばハンバーグの調理実習のページには二次元コードがあります。カメラ機能で読み込むと、調理動画、ワークシート、その他いろいろなコンテンツを選ぶことができ、主体的に学習を進めることができます。料理を選ぶだけで食品群別摂取量が自動で計算・グラフ化されるなど、献立作成にも活用でき、いろいろな方法での活用が考えられるというところでした。

続いて、教育図書の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑩が特徴的でした。

さらに、教育図書の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点⑥「生活の営みに係る見方・考え方を働かせるための工夫」でした。具体的には、1ページをご覧ください。「ガ

イダンス「つなぐ・つながる×家庭分野」において、SDGs のことについての説明を掲載し、それ以降のページにおいて「この学習は SDGs に関わるかどうか」という考え方が自然にできるようにしています。これに関連するページとして 174 ページをご覧ください。左下の参考「SDGs とファッション」の欄の上に、四角囲みで「⑩人や国の不平等をなくそう、⑫つくる責任つかう責任」のマークが記載されていますが、生徒は自然とそのつながりについて理解をすることができるというところでした。

続いて、開隆堂の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第 1 の観点は、視点①

第 2 の観点は、視点④

第 3 の観点は、視点⑤

第 4 の観点は、視点⑦

第 5 の観点は、視点⑩が特徴的でした。

さらに、開隆堂の教科書で最も特徴的なのは、第 3 の観点の視点⑤「学習した内容を家庭や地域で実践するための工夫」でした。具体的には、237 ページをご覧ください。「考えてみよう」の欄を設定し、生活の中の具体的なできごとから課題を考える活動につなげています。このページでは「やってみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」のコーナーもあり、学習した内容を実践につなげるきっかけの場が設定されているというところでした。

以上で、技術家庭科の家庭分野の教科用図書の調査報告を終わります。

【高本副会長】

それでは、今の調査報告を受けて、調査員に質問はございませんか。

【杉原委員】

SDGs のご説明がありましたが、実際に家庭科の授業をする上で SDGs に関わる内容を扱うことがどの程度ありますか。

【調査員】

多いのは消費生活についてだと思います。全ての分野の中で「使われたものをもう 1 回使ってみよう」というような観点がありますので、よく話題になります。また、課題にすることも多くあります。社会科とも関連しますので、そういう視点を入れた課題設定をしてレポートを提出することが多いです。

【杉原委員】

比較的多く扱われているということですか。

【調査員】

はい。そうです。

【住田委員】

開隆堂の「考えてみよう」には、具体的に子供たちが習ったことを使って、これを改善しましょうといった内容のところがありますが、他の教科書には考えさせるような質問や問いかけというのは開隆堂ほどはないのでしょうか。

【調査員】

どの教科書も扱ってはいます。「開隆堂の特徴の中では」と思ったので挙げました。

【住田委員】

他の教科書ではどうでしょうか。

【調査員】

東京書籍では「生活に生かそう」や「まとめよう」、「学習のまとめ」というところで設定されています。教育図書では、「ふり返る」というところがあって、そのページの知識・技能が身に付いたかどうかを自己評価するところがあります。

【杉原委員】

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」の⑤の視点「学習した内容を家庭や地域で実践するための記述」と⑥の「生活の営みに係る見方・考え方を働かせるための工夫」についてどちらも重要だとは思いますが家庭科という教科では、どちらがより重要だと思いますか。

【調査員】

私は、家庭科で学んだことを家で実践し、そのことで自立を促すということが大事だと思いますので⑤だと考えます。⑥についてですが、子供たちの中には生活経験が乏しいために、具体的なことをイメージしにくいのが特徴と考えます。

【杉原委員】

⑥について3社とも記述をしてありますか。

【調査員】

3社とも取り扱っています。イラストやキーワードを用いて工夫してあったと思います。

【高本副会長】

最初に東京書籍のところで、デジタルコンテンツというところがありましたが、全ての教科書で出てきます。この3社の中で違いはありますか。

【調査員】

東京書籍が圧倒的に量が多いです。

【高本副会長】

内容については掲載されているものに大きな違いはないでしょうか。

【調査員】

撮影の仕方もよく研究されていると思います。子供たちは反転、対面にするとわからなくなることが多いです。子供の視点から見られるようになっていたり、計算ソフトもあつたりと工夫されていると思いました。

【高本副会長】

では、調査員の方、ありがとうございました。

これより、協議を行います。調査員からの報告書をもとに、その通りという意見でもいいですし、その他の点についてでも構いませんので、意見を出してください。

【杉原委員】

先ほどデジタルコンテンツは東京書籍が多いとありました。包丁の使い方、切り方を比較したときに、3社とも動画で説明してありますが、教育図書については、動画以外の中身、例えば食習慣であつたり食品成分表であつたりと、補助的な資料をコンテンツの中で提供されていると見ました。今の教育において使いやすさという点ではわかりませんが。

【高本副会長】

SDG s については、どの場面でも伝えないといけないと思っています。教育図書はわかりやすいと思いました。

【奥村委員】

実技の分野ですので裁縫など、子供たちが一人だけで作業するのが難しい内容もあると思います。先ほど調査員が言ったように東京書籍は動画コンテンツが圧倒的に多い上に、撮影の仕方の工夫もされているということです、そういう子供たちの支援になるのではないかと考えました。

【杉原委員】

いわゆる消費者被害の点で、最近は特に被害が多いので各社を比較してみました。開隆堂は比較的データが多く掲載されているだけではなく、手口も記載されています。教育図書はそういったデータよりも手口をわかりやすくして記載している印象があります。子供たちにとっては、データよりも具体的な手口が載っていて、どうやったらだまされないかといった観点の方が大事ではないかと思っています。

【榎本委員】

消費者トラブルで言えば、東京書籍は 200 ページに事例の紹介とデータの紹介がされています。開隆堂はデータと事例の紹介のバランスがよいと感じます。

データの部分に関しては、出典の情報が違います。開隆堂は、東京都の消費生活総合センターの相談件数ですが、東京書籍は国民生活センターということで分母が違います。相談件数 200 件と、4000 件というインパクトの面では、東京書籍も面白いのかなと思います。

【高本副会長】

それでは、調査報告や協議を元にして、評価表にご記入ください。

【高本副会長】

続いて、数学の調査研究報告に移ります。それでは、調査員の調査研究報告をお願いします。なお、ポイントを絞って 10 分以内で報告をお願いします。

【調査員】

ただいまより、数学科の教科用図書の調査報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは、東京書籍の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第 1 の観点は、視点①

第 2 の観点は、視点③

第 3 の観点は、視点⑥

第 4 の観点は、視点⑧

第 5 の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、東京書籍の教科書で最も特徴的なのは、第 5 の観点の視点でした。具体的には、二次元コードから教科書のページに沿ったデジタルコンテンツを読み取り、その中の動画シミュレーションやフラッシュカードなどを使って反復練習を行える環境が整っていることです。その他の動画なども充実しており、視覚的に内容を理解しやすくする工夫や数学的思考を行いやすくする工夫がされていました。

続いて、大日本図書の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑨

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、大日本図書の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点です。具体的には、二次元コードを読み込むことで、教科書に掲載されている多くの例題の動画解説を見ることができ、内容を理解しやすくする工夫がされていることです。その例題の解説も丁寧な説明がされており、生徒のつまずきを把握したものとなっていました。

続いて、学校図書の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑨

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、学校図書の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点です。具体的には、二次元コードを読み込むことで、問題の解説だけでなく、「マスマス」というAIチャットを使って質問を行うことができるようになっていることです。チャットに間違った式や知りたいことを入力することで回答が返ってくるようになっていました。生徒の個別のつまずきに対応した内容となっていました。

続いて、教育出版の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑨

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、教育出版の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点です。具体的には、各学年で学習する章の扉で日常生活につながる問題が章の最後で解決できる内容となっており、単元のゴールを見通しをもって考えることができるようになっていました。

続いて、啓林館の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑧

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、啓林館の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点です。具体的には、二次元コードを読み込むことで、教科書の多くの例題の動画解説を見ることができるようになっていました。また、教科書の問題数は他の教科書と比べて少ないですが、デジタルコンテンツ内に補充問題や発展問題が非常に多く収録されていました。

続いて、数研出版の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑨

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、数研出版の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点でした。具体的には、多くの問題において、2人の会話文を通して問題発見をしていく場面が多くありました。会話文を理解することやその中から必要な情報を読み取る問題も多くありました。

最後に、日本文教出版の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は視点②

第2の観点は視点④

第3の観点は視点⑥

第4の観点は視点⑨

第5の観点は視点⑩が、特徴的でした。

さらに、日本文教出版の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点です。具体的には、二次元コードを読み取ることで、図を用いた説明も聞くことができ、実際に図形を操作することができ、図形の特徴を理解しやすくなっていました。生徒の思考を補助するコンテンツが豊富にありました。

以上で、数学科の教科用図書の調査報告を終わります。

【高本副会長】

それでは、今の調査報告を受けて、調査員に質問はございませんか。

【高本委員】

多くの教科書会社で第5の観点がありましたが、大きな違いはありましたか。

【調査員】

大きな違いはほとんどはないですが、学校図書だけ生徒の質問に対して答えるというAIチャットがありました。それ以外の教科書会社は、学校図書も含めて、動画シミュレーションだったり、色々な例題を解説したものだったりとかかれ少なかれ一緒のものになります。動画を文面で解説したものと、音声で解説したものがありますが、それは先ほど話した内容となっております。ただ特徴的なものは学校図書のAIチャットだと思います。

【高本副会長】

数学というのは積み上げていく教科で、基礎学力が不足している子供に対して学び直しがしやすかったり、繰り返しにより定着を図りやすかったりするのはいくつの会社でしょうか。

【調査員】

啓林館に自分で学習ができるコンテンツがたくさんあります。例えば、学校になかなか来れない生徒でも、例題が音声で解説してあるので、自分で問題を解いて答え合わせができるようになっています。啓林館は問題演習、定着に向けての動画で非常にサポートがされていると思います。

【吉岡委員】

第1の観点で見た時に、特にその中で、概念的な理解を深める工夫が優れている、特徴的である出版社があれば教えてください。

【調査員】

どの会社も優劣を付け難いです。そこのフォローはどこの会社もしてあります。

【奥村委員】

全国学力・学習状況調査でも思考力を問うような問題が多くなってきました。それを充実させているところはありますでしょうか。

【調査員】

どこの会社も会話形式で思考させるなどの工夫がされています。どこも力を入れており、優劣はありません。

【奥村委員】

単元に入るに当たり、先ほど1社が興味・関心を高める工夫がなされているとありましたが、他に特徴的な会社があれば教えていただきたいです。

【調査員】

数研出版です。ほとんどの問題において2人の人物の会話文が登場します。数学の見方・考え方を使って推論させるなど、数学的思考をさせる工夫がされていました。

【住田委員】

第3の観点の⑥について、子供が身近に感じるとか、日常生活でこういう場面があるなどというような題材を取り扱ってるのはどの会社が1番多かったのでしょうか。あるいは特徴的、見やすかったのはどこでしょうか。

【調査員】

全ての教科書において第5の観点のみ現行のものと大きく変わっていて、他の観点はあまり変わっていない印象があります。第5の観点以外のことであまり優劣はありません。

【杉原委員】

子供たち自身が数学を学ぶ醍醐味というか、数学のよさ、そういったものを経験することで、子供たち自身の数学に対する意欲とか、あるいは将来そういった数学的な表現を用いるということにつながるという面で言うと、第2の観点の③がそういった中身だと思います。そういった視点で見たときに、特にこの教科書が特徴的だとか、そういった数学のよさに触れていく上で、非常に優れているところがもしあれば教えていただきたい。

【調査員】

日常生活で使える数学へのつながり、数学の問題を解いて嬉しいなということにつながるというところのバランスが整ってるのは、東京書籍だと思います。全ての面がほどよく整っていたのは東京書籍だと思います。その学習がなぜ必要なのか、日常生活の助けになるというところのメッセージは、どこの会社にも込められていました。

【奥村委員】

調査員の中では、どの教科書が使いやすいかといったような話がありましたか。

【調査員】

調査員の中では、東京書籍のバランスがよいとの話がありました。

【高本副会長】

では、調査員の方、ありがとうございます。

これより、協議を行います。調査員からの報告書をもとに、その通りという意見でもいいですし、その他の点についてでも構いませんので、意見を出してください。

【住田委員】

東京書籍が全体的なバランスがよいと言われていましたが、東京書籍は全国学力・学習状況調査をベースに作ってる部分があるので、バランスよく作ってあるのだろうということはこれまでも話題にはありました。

府中市では今、特に関数のところが弱いという課題があります。1年生の最初の関数である比例・反比例のところを全社見ましたが、数研出版が122ページです。これが貯金箱とコインの枚数の重さの関係で提示されていて、他のものは、水を入れるといったところが多いです。やはり連続してるということがその先の学習で出てくるので、硬貨では、点が並ぶだけで線で結ぶことはないのです、その間の重さというのがないです。1枚2枚とあっても1.5枚などはないとなれば、水のように、1と2の間に1.2や1.5があるという風に連続している量のイメージを最初に子供たちにもたせるというのは大事なところがあると思っています。関数を考える上で、スタートが連続量である方が、後の説明をすることを考えて子供たちに理解しやすいのではないかと思います。

そういった面で見ると、東京書籍や学校図書、教育出版というところがそのような導入をしています。大日本図書はスタートが少し概念的なところが入っています。大事な部分ではありますが、子供が最初に関数に入ったときに、苦手意識をもちそうだなという印象を受けました。

【高本副会長】

それでは、調査報告や協議を元にして、評価表にご記入ください。

では、ここで休憩をとります。15：20に再開します。

(休憩)

【高本副会長】

続いて、音楽科の調査研究報告に移ります。それでは、調査員の調査研究報告をお願いします。なお、ポイントを絞って20分以内で報告をお願いします。

【調査員】

ただいまより、音楽科（一般）の教科用図書の調査報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは、教育出版の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑧

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、教育出版の教科書で最も特徴的なものは、第5の観点の視点でした。具体的には、

いくつかの教材に二次元コードを掲載しています。イメージ画像とともに範唱を聴くことができ、深く曲のイメージをもつことができます。また、鑑賞教材では、楽曲全体の鑑賞だけでなく、部分的に楽器や声等を動画で視聴できるようになっています。

続いて、教育芸術社の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑧

第5の観点は、視点⑩が、特徴的でした。

さらに、教育芸術社の教科書で最も特徴的なものは、第5の観点の視点でした。具体的には、全学年、各教材に二次元コードを掲載しています。歌唱教材においては、旋律のみの歌唱パートやピアノ伴奏、合唱曲ではパート別の旋律の音源を再生することができ、生徒が授業以外でも主体的に学習に取り組むことができるようになっています。

以上で、音楽科（一般）の教科用図書の調査報告を終わります。

続いて音楽科（器楽合奏）の教科用図書の調査報告をさせていただきます。

まずは教育出版の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、教育出版の教科書で最も特徴的なものは、第3の観点の視点でした。具体的には、生徒の興味・関心を高めるために、鑑賞教材のアイダの「凱進行曲」や「ボレロ」、歌唱教材の「荒城の月」や「アメージング・グレイス」等、多数の曲を関わらせて学習に取り組めるように掲載されています。

続いて、教育芸術社の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、教育芸術社の教科書で最も特徴的なものは、第2の観点の視点でした。具体的には、箏の創作において、課題や条件に沿って旋律をつくる活動が掲載されています。その中で、課題と条件を示し、Warming up から始まり、①～③の手順と創作の例を示して、創作ができるように工夫されています。また、イラストのキャラクターが既習事項である「いろいろな奏法」を取り入れるよう促しており、自分の技能に合わせて創意工夫ができるようになっています。

以上で、音楽科の教科用図書の調査報告を終わります。

【高本副会長】

それでは、今の調査報告を受けて、調査員に質問はございませんか。

【北川委員】

従来からあるピアノや和楽器に加えて、いわゆるボカロとか打ち込みの音楽というのは、子供たちも当然聞いていますが、そういったものに触れられているところがありますか。

【調査員】

教育出版の1年生の64ページに「コンピューターで表現しよう」があります。コンピューターを使って自分で創作するという内容は、こちらに記載があります。

【杉原委員】

音楽の一般の方ですが、音楽の醍醐味というか、音楽表現についてです。視点で言えば③あたりというふうに思います。それぞれの会社で、表現というところで見たときに特徴やよさを教えていただきたいです。

【調査員】

教育芸術社でしたら1年生45ページに「学びのコンパス」があります。聞き取ったことや感じ取ったことを話し合うというような対話的な学びが入っています。その後に、自分で感じたことを考えるという活動も設定されています。個の学びから他者との学び、そしてまた個の学びへと返っていくような設定がされているのが教育芸術社です。

教育出版も同じ教材で見えます。1年生47ページです。教育出版は聞き取ったこと感じ取ったことを自分で書くとなっています。また、音楽を形づくっている要素が書かれており、それに基づいて聞き取ったり個人の考えを書いたりするようになっています。

また、教育出版は、既習事項の他の曲と比較するというものが多いです。例えば、教育出版2・3年生上の23ページです。「浜辺の歌」と「早春賦」では、曲のつくりからこの2曲の似ているところや、違うところを比較し、自分だったらこの曲をどう表現するかなと考えを深めるというのが教育出版の特徴となっています。先ほど申したように、教育芸術社は個から集団、そして個に振り返りながら考えを深めるという違いがあります。

【吉岡委員】

音楽一般に関してですが、題材やタイトルに伴って学習目標が示してあります。各社、学習目標の示し方にどのような特徴があるかを教えていただきたいです。特に生徒の興味・関心を引くという視点からみるといかがですか。

【調査員】

教育出版は、その曲で何をするのかというような形で2つの項目が書かれていることが多く、こういうことを学んでいくんだということが明示されています。

教育芸術社はページ上部に示されているものと掲示板のようなものを含めてですが、この曲はどんな曲なんだろうと考えるように促しているような示し方になっています。

【杉原委員】

先ほどのヴィヴァルディについてですが、教育芸術社は、ちょっと堅い感じがします。イメージとしてです。例えば、夏の第3楽章はこうのように表現されてますよと文字の情報で示してあります。

教育出版は、イラストが使われていて割とソフトなイメージを受けますが、実際に音楽の授業で指導をされていて、そのあたりは何か影響がありますか。

【調査員】

あります。一概にどちらがよいとも言えないのですが、先ほど申し上げた春の第1楽章で言えば、教育出版の方は47ページに色々なパートの記載がされています。ここはヴァイオリン、ここはヴィオラだと括っているので演奏の形態を説明しやすいです。

教育芸術社は言葉ではいくつか説明がありますが、手元にある教科書を見せながら少し補足説明をしないとイケないと思います。

【杉原委員】

教育芸術社にはコントラバスが書いてないですね。

【調査員】

そうですね。

【杉原委員】

書いてあった方が子供たちからすればわかりやすいでしょうか。

【調査員】

わかりやすいと思います。ただ全てにおいてそれがよいのかといたらそうとは言えないと思います。教育出版の方は割と丁寧に写真等が掲載されていますが情報が多すぎる時もあるかなと思います。ですので、一概にどちらがよいとは言えません。教育芸術社はスッキリして見やすいところもあります。

【北川委員】

器楽の方ですが、尺八や箏、三味線など実際に全部を授業を扱っているのですか。

【調査員】

全部ではありません。和楽器が色々ある中で1つという形になっています。多いのは箏ではないかと思います。

【北川委員】

では、楽器は触らないけれど、例えば篠笛などについて知識として授業で教えることはあるのですか。それとも扱わないのですか。教育芸術社でいえば打楽器のボンゴなど、細かく書かれています。知識として教えるのであればこの辺も全部教えていくのか教えてください。

【調査員】

どちらかというと実際に触れていくもので授業を進めていきます。全部を網羅するのは難しいです。

【奥村委員】

第1の観点の「知識及び技能の習得」について、情報量が多い、または、ポイントを押さえていると2社の特徴を述べてもらいましたが、知識と技能を子供たちに伝える点において教科書会社の特徴をもう一度整理して教えてください。

【調査員】

知識と技能ですか。

【奥村委員】

はい。

【調査員】

器楽についてですが、技能面で言うならば、教育出版はリコーダーについて段階的に技能

を習得できるように示してあります。1音だけで色々なリズムを刻む、押さえる指を変える、押さえる指を少しずつ増やす、隣り合う音を出す、というようなことをしていき、段階的に学べるように示してあります。

教育芸術社の方は簡単に技能の説明があつて、すぐ演奏に入ります。どこかで聞いたことがあるような曲を中心に、その曲を使いながら指を慣らしていきながら学んでいくようになっています。教育出版はスモールステップで学び、それを曲にしていくので逆です。

【高本副会長】

教育芸術社は、先ほどの説明の時に二次元コードを読み取ってパート別に聞くことができると思いますが、ほぼ網羅しているのですか。

【調査員】

ほとんど網羅してあります。ただ後半の方に合唱曲集があるのですが、こちらにパート別はありません。ピアノ伴奏のみです。それまでの途中に入っている合唱曲についてはパート別になっています。ただ歌が載っているだけでなく、打ち込みの電子音でパートの音を完成させるところもあります。

【杉原委員】

器楽の箏についてですが、「さくら さくら」が教出と教芸で1音違います。これはなぜですか。平調子のところの楽譜にしてあるところを見ると違うのですが、何か決まりがあるのですか。教芸は42ページ、教出は44ページです。

【調査員】

同じ平調子なのですが2種類ありまして、開始の音をどちらにするかの違いです。ミを基準にして同じ幅で演奏するか、レの音で開始するかです。どちらも平調子と言ってよいです。音の高さが違うだけです。

【杉原委員】

教出はどちらですか。

【調査員】

ミから始まる平調子です。両方とも同じ平調子ですが、演奏する人でどちらを使うか変わります。

【杉原委員】

流派の違いではないのですね。

【調査員】

流派ということではありません。ミから始まる方が多いのではないかと思います。こちらのほうが華やかなイメージとなります。

【榎本委員】

ラ・ラ・シカソ・ソ・ラの違いですか。

【調査員】

はい。ソ・ソ・ラの方は落ち着いたイメージです。これは調弦する人によって変わります。

【杉原委員】

どちらかと言えば教芸の方が内容が難しそうに見えます。教出の方は同じ「さくら さくら」でも同じ箏のところでも割と早く出てきますが、教芸の方は後の方に出てきます。前奏なども含まれています。音楽家として指導する場合、どちらがよいということはあるですか。

【調査員】

どちらがよいということは特にはないです。教出であれば「荒城の月」等もありますので、教科書と連動して指導することも可能かなと思います。教出であれば歌唱と器楽が連動していますので、リコーダーに限らず箏でも楽曲を扱うことができます。

【高本副会長】

では、調査員の方、ありがとうございました。

これより、協議を行います。調査員からの報告書をもとに、その通りという意見でもいいですし、その他の点についてでも構いませんので、意見を出してください。

【北川委員】

先ほど質問した器楽の方ですが、言われたとおり全部を網羅するのではなくて、実際に生徒が触れる楽器が毎年箏ということであれば、箏を比較対象として、それがわかりやすいか、丁寧かというところを見比べれば比較しやすいと思いました。もし、学校ごとに三味線も扱うということであれば総合的なところを見て判断すべきかなとも思いました。

もう1点が音楽一般の方です。教科書を見比べて教育芸術社の2・3年生下60ページや62ページにあるようなものは今の子供たちによいのかなと思います。音楽のジャンルとしてロックやフォーク等が紹介されています。教育芸術社の方が面白いと思いました。ただジャンル分けをするのではなくて、例えばブルースとジャズは関係があるとか、ロックやR&Bのような音楽のジャンルまで丁寧に書いてあるのは教育芸術社です。今現在の音楽について取り付きやすいのではないかと思います。

【高本副会長】

パソコンに曲を落とし込む内容が教育出版にあります。最近は生徒の中にも曲をつくる生徒が数名いまして、このようなことを学べるなら今の子供たちにはよいと思います。習ったことを生かせるのも音楽の楽しみの一つなのかなと思います。

【榎本委員】

杉原委員からの話にもあったのですが、例えば教育芸術社2・3年上の61ページ、「学びのコンパス」で「オペラと歌舞伎のよさについて考えよう」とあります。教育出版の方では2・3年生下52ページに「それぞれの表現の仕方を調べてみよう」とあります。教育芸術社は細かいです。逆に言うと高度すぎるとも言えます。授業でオペラと歌舞伎についてどこまで突っ込んで、細かく見ていく必要があるのでしょうか。もっと大きく音楽の役割を捉えてみていくという視点でみると、教育出版の方が、取り付きやすいと思いました。

【奥村委員】

私が調査員に質問したことですが、器楽の面で言うとリコーダーの知識・技能の習得面でスモールステップを踏んでいくのが教育出版です。聞きなじみのある曲から技能を高めていくのが教育芸術社です。どちらが子供たちにわかりやすいかというと、私はステップを踏んで学習できる方だと思いました。音楽に苦手意識をもっている子供にとってもよいのではないのでしょうか。

【高本副会長】

それでは、調査報告や協議を元にして、評価表にご記入ください。

【高本副会長】

続いて、国語・書写の調査研究報告に移ります。それでは、調査員の調査研究報告をお願いします。なお、ポイントを絞って20分以内で報告をお願いします。

【調査員】

ただいまより、国語科の教科用図書の調査報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは、東京書籍の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑩

第5の観点は、視点⑫が、特徴的でした。

さらに、東京書籍の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点です。各学年末に、社会の課題について多角的な視点から考える教材「未来への扉」があり、文章と資料を関連させて理解し、社会の課題に対する考えを深め、意見文やスピーチという形で自分の考えを他者に伝える活動があります。

続いて、三省堂の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑦

第4の観点は、視点⑨

第5の観点は、視点⑫が、特徴的でした。

さらに、三省堂の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点でした。教材文の初めに学習目標が示され、終わりにある「学習の道しるべ」では、文章を読み深めるための視点や思考の方法が示されています。また、教材文の前や後にある「読み方を学ぼう」のページでは、文章を読むときの着目点が図で示されており、見通しをもって学習に取り組むことができます。

続いて、教育出版の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑩

第5の観点は、視点⑫が、特徴的でした。

さらに、教育出版の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点でした。生活や社会におけるさまざまな課題に対して、自分の考えを表現する学習課題が設定されています。具体的には、2年生の「書くこと」では「新聞の投書を書く」という活動があります。また、総合、SDGsの教材では、社会問題に関する文章やコラムが掲載されています。

続いて、光村図書の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点④

第3の観点は、視点⑥

第4の観点は、視点⑩

第5の観点は、視点⑫が、特徴的でした。

さらに、光村図書の教科書で最も特徴的なのは、第2の観点の視点でした。「話すこと・聞くこと」の活動において、話し合いの視点や進行の流れなどの例が具体的に示されています。また、1学年ではグループでの話し合い活動、2学年では討論、3学年では合意形成のために全体会議を開く活動が設定されており、学年に合わせた活動場面が設定されています。

以上で、国語科の教科用図書の調査報告を終わります。

続いて、国語科書写の教科用図書の調査報告をさせていただきます。

まずは、東京書籍の特徴について、各観点で特徴的な視点の番号をお伝えします。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点④

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、東京書籍の教科書で最も特徴的なのは、第5の観点の視点でした。書いている人の視点で筆順や筆運びを見ることができるデジタルコンテンツでは、視覚的な理解を図ることができます。筆圧や点画の長さ、筆運びについての注意点も動画とともに音声で流れます。

続いて、三省堂の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点④

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、三省堂の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点でした。グループ新聞や地域の情報誌を作るなど、学習してきたことを生かし、身近な課題について考えながら協働的に活動することができる単元が設定されています。

続いて、教育出版の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点②

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点④

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、教育出版の教科書で最も特徴的なのは、第3の観点の視点でした。学習や日常生活と関連のある単元として、「おすすめの本の帯やポップを作る」「掲示物に案内を書く」などが設定されており、生活の様々な場面での書写の学習の応用が図られています。

続いて、光村図書の特徴について、報告します。

第1の観点は、視点①

第2の観点は、視点③

第3の観点は、視点⑤

第4の観点は、視点⑦

第5の観点は、視点⑨が、特徴的でした。

さらに、光村図書の教科書で最も特徴的なのは、第1の観点の視点でした。具体的には、字を書くときの姿勢のほかに、タブレットを使うときの姿勢も示されています。右手で書く人だけでなく、左手で書く人のための姿勢・書き方も動画で確認することができます。また、硬筆の練習用の「書写ブック」が付属されているのは光村図書だけです。

以上で、国語科書写の教科用図書の調査報告を終わります。

【高本副会長】

それでは、今の調査報告を受けて、調査員に質問はございませんか。

【榎本委員】

書写の目的というのは、私は、正しい漢字の書き方の習得だと思っていますが、三省堂には、グループ新聞や情報誌をつくとありました。これは他の出版社も同じようなものがあるって、その中で三省堂が特徴的だったのか、三省堂だけがあったのか、そもそも必要があるのかなというのが素朴な疑問です。

【調査員】

まず、三省堂のグループ新聞、地域の情報誌という学習活動は他の教科書にはないものです。他の出版社ではポップを書く、ポスターを書くというものはありますが、特にグループで何かを作る、グループで情報誌を作るというように、書写で学んだことを生かして、みんなで何かを作るというのが三省堂の特徴だと思います。さらに、この活動というのは教科書の活動と連動しています。各学年にグループ新聞を作る単元が教科書にあり、書写の中でも同じ学年でグループ新聞を作る構成になっています。教科書で学び、書く時に書写で習ったことを生かして書く、そのような意図だと思います。

【杉原委員】

国語の竹取物語を比較して見ていますが、現代語訳が本文の横に書いてあるパターンと下に書いてあるパターンがあります。また、竹取物語のどの部分に現代語訳が付けられているのかということも教科書会社によって多少違うと思いますが、時代背景等々も含めて国語科で指導しやすいといったものがありますか。

【調査員】

まず、現代語訳が横にあるか下にあるかということですが、これは中学校1年生で学ぶ単元ですので左側にあると読みにくいのではないかと私は思います。下にあるほうが話の流れを把握しやすいと思います。ただ、原文と現代語訳を合わせて読んでいきますので、その時に下に書いてあるとこちらの指導でわかりやすく一緒に読ませるということが必要になっていくのではないかと私は思います。

現代語訳が付けられる部分としてよく取り上げられるのは、冒頭と5人の貴公子の部分ですが、その話の違いによって学習に違いがあるのかということは私の中では判断できま

せん。

三省堂は、「月思う心」という解説を学んでから竹取物語の学習に入る構成になっています。また、三省堂の絵は子供たちが興味・関心をもちやすいのではないかと思います。

【杉原委員】

他の3社は大体絵巻をちりばめてありますが、三省堂の場合は後でまとめて載せてあります。私の感覚からすると現代的な絵は少し捉え方が違ってくるのではないかと思います。イメージの問題ですが、そのような感じがします。

確かに現代語訳が下に書いてあると上下がずれてしまいますよね。

【調査員】

そうですね。

【杉原委員】

どこに現代語訳が書いてあるかということが、子供によってはわかりにくいかもしれませんね。

【吉岡委員】

東京書籍をはじめ、第3の視点「問題解決的な言語活動」を各社取り入れていると思いますが、特徴的な、特筆すべき出版社があれば、ページ数と合わせてご説明願いたいです。

【調査員】

東京書籍の1年生でいうと220ページ、2年生でいうと216ページ、3年生でいうと214ページの最後の方にあります。3学年ともテーマが違い、1年生の場合は障害のある方や性の多様性に関する資料があります。まず文章を読み、225ページのポスター、224ページの条例、これを合わせて考えていくのが226ページの活動になります。

問題解決についてですが、3年生で見えていきます。東京書籍では207ページ、三省堂では47ページ、教育出版では239ページに「合意形成」に関する教材があります。これは「話す・聞く」の単元ですが、どの出版社も3年生になると「合意形成」について、身近な地域の課題や社会問題、身近な日常生活、学校での場面など色々なテーマはありますが、話し合う活動が設定されています。最初にグループで話し合ってから最後に全員で合意形成を図る方法、会議の形で合意形成を図る方法など、方法の示し方には違いがあります。特に、光村が会議形式になっていて特徴的だと思いました。光村ですと186ページからです。図があったり会議の流れが詳しく書いてあったりするのは、同じ「合意形成」についての学習でも光村が特徴的だと思います。

【住田委員】

国語の観点2の⑤「内容を解釈するための本文記述と図表等の関連」というところがありますが、入試などでは、国語で表やグラフを見て答えるという問題がたくさん出てくるようになってきたと感じています。どこも同じような中身なのではないでしょうか。何か特徴的なところがある教科書会社があれば教えてください。他の教科書会社よりたくさんそういう問題があった等はありませんか。

【調査員】

量的なところはわかりかねますが、結び付けて考えるということと言うと三省堂の1年生44ページをご覧ください。長い教材の前に短い教材があって、そこには読み方の視点が書かれているものが付いています。このページでは図表は無いのですが、このように注目す

る点が書かれていると、なかなか長い文章を読むことができない生徒も読む視点を理解しやすいと思います。この点が特徴的だと思います。

【奥村委員】

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」の⑧に「学習を振り返るための工夫」という視点があり、報告書を見てみますと、光村に「学びの鍵を用いて」と書いてくださっています。その具体をページ数等を踏まえて教えていただけますでしょうか。

【調査員】

光村の1年生の教科書で言いますと104、105ページをご覧ください。「学びの鍵」は全ての教材に付いているわけではなく、所々に入ってくるものです。振り返りというより視点です。「このような視点で読んでいこう」と示されています。教材の最後に「学びの扉」が付いていて、そこで振り返りを行っていくようになっています。

それと似ている工夫が東京書籍の1年生だと108ページです。目標が示されて、「見通す」「つかむ」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」という流れになっています。110ページを見ていただくと、「文学の学び」がありますが、恐らくこれが光村の「学びの鍵」に当たると思います。

【奥村委員】

この教材は授業等をする上でかなり重要視されるものですか。個々によりますか。

【調査員】

個々によると思います。それでもやはりこのページがあることによって子供が常にここに返ることができます。教員の方で読み進めても視点を示しても、その板書等も形に残りません。しかし、読む時に絶対にここに戻れるので生徒にとってはよいと思います。

【高本副会長】

国語と書写についてどれもうまく連動しているとは思いますが、対で見たときに効果的で連動性が最もあるものはどれでしょうか。

【調査員】

それぞれの教科書で連動性はありますが、効果的というと三省堂です。先ほど申し上げましたが、グループ活動をするために書写の技術を生かすというところに連動を感じました。その他は教材との結び付きが強いとは感じませんでした。

【高本副会長】

では、調査員の方、ありがとうございました。

これより、協議を行います。調査員からの報告書をもとに、その通りという意見でもいいですし、その他の点についてでも構いませんので、意見を出してください。

【榎本委員】

古文というところで見ると光村図書1年生の156ページに竹取物語がありますが、冒頭に関係図があります。関係図が初めに出ているのは、以後の学習の内容理解にとってよいのではないのでしょうか。古文を読む前にこの関係図があることで、読めばなるほどとなるのではないかと思います。

同じように光村2年生の古文を見ると、36ページの枕草子。こちらにも関係図があります。これを頭に入れた上で読むと、全然読みやすさが違うのではないのでしょうか。そういつ

た意味では、理解をする工夫がされていると感じます。

【奥村委員】

国語だと新出漢字が文章等に出てくると思います。その扱い方も教科書会社で違います。

例えば、光村の1年生72、73ページに出てきた漢字では、その使い方がわかるように書いてあります。その他の教科書だと出てきたものがそのまま下に書いてあったり、別のページにまとめて書いてあったりします。どれが子供にとって一番見やすいのかはわかりませんが、光村の記載の仕方は習ったものがそのまま下にあり、読み方、そして熟語も書いてあるのでわかりやすいと思いました。

【住田委員】

視点⑤について、調査員の方から大きな違いはないという話でした。しかし、県の方の資料の10ページを見てみると、同じ項目ですが、ここにはグラフ等の個数だけが書いてあります。グラフと文章とを比較しながら読み、論理的に解釈をしていく問題は、よくテストや入試で出されます。光村の「クマゼミ増加の原因を探る」では、圧倒的にグラフが多いです。教科書も見ても、2年生の45ページにたくさんのグラフが出てきていて、仮説を立てて関連付けて考えられる内容が非常に多いです。グラフなどと関連付けて考えられるものがあるというのはよいと思いました。今、入試等で求められる力につながると思います。そういった部分で考えると光村や三省堂です。

【高本副会長】

それでは、調査報告や協議を元にして、評価表にご記入ください。

では、ここで休憩をとります。17:00に再開いたします。

【高本副会長】

それでは、これより、選定協議が途中の教科書について、協議を再開します。

では、最初に技術からいきたいと思います。技術で何かございますでしょうか。

【北川委員】

全般的にそうでしたが、デジタルコンテンツが横並びでしたので、逆にそれ以外のところで選定をしたくなってしまうと思います。そういう意味で、教育図書の第1の観点の②のところを評価しました。先端技術のプラス面とこれから考えられるマイナス面という紹介が面白いなと思いました。便利なものにもマイナス面があるという紹介の仕方がよいなと思いました。それ以外は本当に横並びだと感じました。

【奥村委員】

高校で情報Ⅰが必修化になったことを受けて、双方向性のある情報という内容の充実具合を見ました。

一番よいなと思ったのが東京書籍です。220ページから双方向性のあるコンテンツというものが出ています。各社、プログラミングツールを使うということは記載してありますが、東京書籍については、身の回りから課題を設定し、それをどうやって解決できるのかという構想をこの教科書の流れで実際にやってみるという構成になってます。また、その終末には、自分が作ったプログラムがどうだったのか、評価・改善・修正をするための視点がたくさん示されてるので、実際に作ったものを評価しやすいです。やってみたいなと思えるような構

成になっていました。

【杉原委員】

先ほど最初に言ったのですが、やはり技術科は、実際の製作などが重要になってきます。そういった意味で道具の使い方であったり、作業進め方であったり、そういうことはやはり東京書籍や開隆堂がわかりやすさという面で優れていると思いました。ですから基本的な技能、あるいは学習過程の工夫、そういった面でこの2社かなと感じました。

【榎本委員】

北川委員がおっしゃったように、着眼点は教育図書が面白いなと思いました。

ただ、情報分野のところで行くと、3社で比べると若干言葉が足りないというか、もうちょっと説明した方がわかりやすいのではないかなと思いました。例えば、ルーターとは何か等です。東京書籍や開隆堂の方が丁寧に説明していると思いました。

直感的にわかりやすいのは開隆堂ですが、紙面の見やすさで行くと、東京書籍がわかりやすいです。情報セキュリティ等を含めてトータルで流れがわかりやすいのは東京書籍かなと思ったところです。

【高本副会長】

では、次に家庭科にいきたいと思います。家庭科で何かございますでしょうか。

【奥村委員】

家庭科でも思考させたいと思った際に、「どうしてだろうか」と感じるような課題設定が一番豊富にあるのが東京書籍だと思いました。人間のようなキャラクターが節ごとにより、教師と子供たちとの言語活動が膨らみやすいと思いましたし、情報量としても、先ほどの話の中でもありましたが、東京書籍が図表等も含めて充実していると思いました。

【杉原委員】

全体的に教育図書は非常に写真が多いです。ですから、「特別支援教育に配慮した構成、デザイン」という視点から考えると、視覚的でわかりやすいです。

【高本副会長】

では、次は数学にいきたいと思います。数学で何かございますでしょうか。

【榎本委員】

中学校になり、学習内容のレベルが上がって苦手になっていく生徒がいますので、「興味・関心を高める工夫」というところが大切だと思っています。調査員に説明いただいたときに、どの教科書会社もここは工夫しているけれども、東京書籍がバランスよく構成されているということがありました。質疑の中でも印象に残っているところです。

【杉原委員】

数学の中では作図等で苦手意識をもつ生徒が多いと思います。作図の仕方についてはどの会社も工夫されていると思ったのですが、特に東京書籍は最初に作図の仕方ということで、しっかりと集中的に取り上げた上で基本の作図に入っていきます。なかなか作図そのものができない生徒が多いなというような感覚をもっていますので、最初に押さえるところを押さえるという構成になっているのはよいと思いました。

【住田委員】

デジタルコンテンツについてですが、東京書籍にフラッシュカードや音声計算というものがあります。パッと見てパッと答える。瞬間的な判断にも使えるなと思いました。また、学校図書のAIチャットですが、苦手な子が1人で学習することにも対応できるようなものになっています。これはなかなか面白いと思いました。

質問のところでお話をさせてもらいましたが、やはり府中市の子供たちが苦手な関数領域のところで考えました。水の連続量で示している教科書会社は何社かありましたが、最初のプールのところから問題に直結してるのは東京書籍だけです。それ以外は少し概念的なことを挟んでいたり、別の場面に転換されていたりしたので、最初の流れから理解を進めていくには東京書籍は比較的わかりやすいと思いました。

【高本副会長】

では、次は音楽一般にいきたいと思います。音楽で何かございますでしょうか。

【吉岡委員】

音楽一般は教育出版社の方が秀でている感じました。その理由は、それぞれの題材やテーマにおける学習目標の示し方が、教育芸術社は1個だったり、2個だったり、3個だったり数が色々違いますが、教育出版は一貫して2つの学習目標を示しているので、学習する方も教える方も到達目標が非常にわかりやすいからです。

【北川委員】

私は教育芸術社の方がよいと感じました。私は教師ではないので、生徒の感覚として考えました。情報量がちょっと多いという意見もありましたが、より詳しくわかるし、イラストも興味をもちやすいような感じがありました。

【住田委員】

1年生の「学習マップ」というところを見ってみました。観点で言うと第5の観点⑨のところです。教育出版は歌唱、鑑賞、創作と教える事項が3つあり、それが関連付いた形で書いてあります。子供たちがこの学習をしたらどこに繋がるのか、その領域がどこに繋がっているのかということが非常にわかりやすく示されています。右下の「学習の進め方」というところにも書いてあるので、主体的に学習していく中で、「次にこれをしたらいいいんだ」「ここを見ればいいんだな」とすごくわかりやすいです。

教育芸術社の方は、それぞれの内容は書いてありますが、横の繋がりはまだあまり書かれていません。どこに繋がっているかというところは少しわかりにくい部分があるのではないのでしょうか。

子供たちが主体的に学習していくために見通しがもてるということで言えば教育出版の方だと思いました。

【高本副会長】

では、次は器楽に行きたいと思います。器楽で何かございますでしょうか。

【北川委員】

どの楽器を生徒たちが使っているかということについて話をしていたら、箏を使うことが多いのではないかという話を聞きました。確かに行事で箏を弾いているイメージがあっ

たので、箏のところだけを見てみると、やはり一般と同じで、教育芸術社の方が情報が多いです。箏の基本的なところから、演奏の仕方が色々あるということまで丁寧に書いてありますし、姿勢の解説もあります。さらに、姿勢だけでなく稽古の時などに教えてもらう人に対する礼儀という部分も設けられています。そこまで教える必要があるかはわかりませんが、情報は少し多めにあってもよいのかなと思いますので、教育芸術社の方がよいと思います。

【住田委員】

リコーダーの技能について、スモールステップで示されているということが教育出版に書いてありました。段階的に練習をする方が技術的には身に付くのではないかと思います。それを考えればスモールステップの教育出版がよいと思いました。

⑤の視点についてですが、リコーダーの表現活動をする際に、鑑賞や歌唱に取り上げている曲、耳に残ってる曲を扱っているの、吹いていても音外れたとか、長さが違うとかということが自分の中で比較的わかりやすいのではないかと思います。新しいことをやるよりは、そういった関連を付けてやっている方が子供たちの中でも、やりやすいとか、覚えやすいようなことが出てくるのではないのでしょうか。ですので、教育出版の方がリコーダーの面で言えばよいのかなと思いました。

【高本副会長】

では、次は国語にいきたいと思います。国語で何かございますでしょうか。

【杉原委員】

1年生の説明文に注目をしてみましたが、どの発行者についても学びの流れといいですか、見通しをもって捉える、つかむなど表現は違いますけれども、より深める、考えをもつ、振り返る等の流れについては示してあります。ただ、その振り返りの視点について、例えば、三省堂の場合は、ペンギンの防寒着、クジラの飲み水での学習を通して学んだことを自分の言葉でまとめようという、比較的漠然としたものとなっているのに対して、他のものは、知るとか読むとか繋ぐというような視点をはっきりと示した上で、図がどのような役割を果たしていたかというような振り返りをするようになっています。特に光村図書がそのような示し方をしてあります。

どの発行者についても説明文のようなものが大体1年生の中に3点ぐらい出てきて、難易度が段々と難しくなっているのかなというような印象を受けました。けれども、光村のものについては、その3つを、1つ目は「思考の視覚化」「情報整理のレッスン」としてあって、2つ目が「根拠の吟味」、3つ目が「具体と抽象」というように説明があって、読み取りの視点を段階的に扱っています。また、52ページのところにその繋がりを示しており、説明文を通して何を学んだのかという視点では非常にわかりやすくなっているという特徴があります。

【高本副会長】

では、最後に書写にいきたいと思います。書写で何かございますでしょうか。

【奥村委員】

調査員の説明の中で光村図書だけ左利きへの配慮があるとありました。他の会社を全部見たわけではないですが、今、鉛筆も左のままの子が多いのでその配慮はありがたいと思い

ました。

【楨本委員】

「行書に調和する仮名」という項目があつて目に付きましたので、これを調べてみると、例えば2年生、光村図書だと74ページになります。行書に調和するということで、流れに沿った字、例えば「いろはにほへと」の「と」の字が特徴的でしたが、一筆書きの「と」になっております。三省堂56ページの「と」はどちらかというと楷書に近いと見えます。教育出版74ページの「と」も同じくですね。東京書籍の52ページの「と」は行書に調和するという意味で何かしっくりくるなと感じました。その中でも光村図書の「いろはに」の「ろ」の形であるとか「に」の上下に若干の余白をもたせるということがわかりやすく書いてあると思います。三省堂は「いろはにほへと」が書いてあるだけでどこに特徴をもたせて、どういう風に違いを付ければリズムよく書けるのかがわかりにくいですし、教育出版も同様です。東京書籍は、若干流れがわかりやすく書いてありますが、一番わかりやすい行書は光村図書かなと思います。

【渡部会長】

筆で書くことが昔苦手だった私が、どの教科書なら書こうかなと思うかという視点で見ました。特に行書と楷書の筆遣いの違いは、子供たちはすごくわかりづらくて難しいです。そういった技能について、実際に筆をどうやって使うかという示し方言えば、教育出版と光村図書の方がよいと思いました。書くということに特化すると書き方が載っていてよいなと思います。

資料は他社も豊富です。絵がたくさん載っていたり漫画が載っていたりするので、知識を習得するためには他社の方がよいのかなとも思いますが、書くという技能を考えた場合は、教育出版や光村図書の方がよいと思いました。

器楽にしても書写にしてそうですが、技術面においてあまり知識をたくさん説明されるものすごく嫌です。早く書きたい、早く音を鳴らしたい、早く触りたいというのが子供たちの心情です。先生方の授業改善の面では、チョークとトークやめなさい、表現させる時間をたくさん設けなさいというようなことが言われてます。

この間、田村先生が講演で来られたときに、表現させる場面と知識を習得させる場面はどのくらいの割合がよいかを尋ねてみました。つまり、インプットの割合とアウトプットの割合です。6対4または、5対5ぐらいかなと私たちは予測していました。正解は2対8。インプット2、アウトプット8です。そのくらいの割合がすごく楽しい、面白いと子供たちは感じる。そんな研究結果もあったと聞いていますので、教科書を見たときに、独学でできるものや書いてみよう、やってみようと思えるようなものが大切なのではないでしょうか。特に技術系のため、そういう視点は大事だと思います。知識も必要ですが、表現が主として示されている作りの方が本来の表現技術というところを考えた時に大切なのではないかなと私は思います。

【奥村委員】

その点で申しますと、書かせるという部分が圧倒的に序盤から多いのは光村図書です。教科書に書くということが充実しています。

【渡部会長】

教え方が上手な先生方が小学生に教えるとき、半紙と同じ大きさに見本を拡大して、横に

置かせます。そうしないと感覚がわからないからです。この教科書も実物大で示すという工夫なのかなと思いました。これは光村図書です。三省堂も実物大です。

【高本副会長】

一通り協議を終えましたが、これまでの教科の部分で言い残したというものがあれば教えてください。

よろしいでしょうか。それでは、これで終わりにさせていただこうと思います。

以上をもちまして、第2回選定委員会を終了いたします。ありがとうございました。

それでは、事務局の方から事務連絡をお願いします。

【大垣主査】

本日は、充実した選定協議を行っていただき、ありがとうございました。最後に、私から3点連絡いたします。

1点目は次回の選定委員会についてです。次回は、7月16日（火）13：30から、この会場で行います。

2点目は、第1回の議事録についてです。ご確認いただきましたら、署名押印をお願いします。

3点目は、本日配付した資料についてです。お配りしております封筒にすべて入れていただき、机の上に置いてお帰りください。

私からは以上となります。本日は、ありがとうございました。気を付けてお帰りください。